

会 員 各 位

熊本市歯科医師会

会長 宮 本 格 尚

(学術委員会扱い)

令和4年度 熊本市歯科医師会第1回学術講演会のご案内

「人生100年時代のう蝕治療」

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、医療法人社団清泉会杉山歯科医院理事長の杉山精一先生をお招きし、下記日程にて講演会を行います。

講師の杉山先生は、日本ヘルスケア歯科学会の代表をされており、う蝕治療に関する最新考え方について最も精通しておられる先生です。日常臨床の中で最も身近な疾患「う蝕」の診断から治療までのマネジメントについてご講演いただきます。歯科医師だけでなく歯科衛生士にとっても興味深い内容だと思いますので、スタッフの皆様も是非一緒にご聴講ください。

参加の際はFAXにて申し込み後、当日は日歯研修カードをお持ちください。

なお、新型コロナウイルス感染再拡大の際には講演会延期としますが、その場合はFAXにてご連絡いたします。また、当日は必ずマスクをご持参下さい。

記

日 時 : 令和4年6月11日(土) 15:00～18:00

場 所 : 熊本県歯科医師会館 4Fホール (定員70名)

講 師 : 医療法人社団清泉会 杉山歯科医院 理事長 杉山精一先生

FAX申込書 申し込み締め切り日：令和4年6月6日(月)

熊本市歯科医師会事務局行(学術委員会) FAX：344-9778

歯科医院名 _____

会員氏名 _____ 歯科医師()名、スタッフ()名

【抄録】

人生 100 年時代といわれる超長生き社会において、多くの人が生涯にわたり、おいしく食事ができて、会話を楽しんで、快適な生活をしたいと思っています。平成 28 年度歯科疾患実態調査によると、8020 達成者は半数を超えて、このような人々の希望に少しずつ近づいているのは、歯科に関わる者にとって大変嬉しいことです。

高齢者の口腔内は、多数歯欠損から多数歯残存の時代へと変化してきていますが、日常臨床では抜歯が必要とされる歯も多数あります。抜歯理由として歯周病による抜歯が多いと思われていますが、調査結果をみますと、歯周病よりも、う蝕関連疾患（う蝕・破折・根尖病変）による抜歯の比率が高くなっています。一度切削修復を受けた歯は、残存歯質の破折、二次う蝕、失活歯となって歯根破折をおこすためだと思われます。

生涯にわたり快適な生活をおくるためには、小児若年期から成人になるまでの切削修復をできるだけ避けて健全歯質を保つことが大事です。そのためには、う窩になってから切削修復する従来のう蝕治療から脱却して、新しいう蝕治療を臨床に導入することが必要です。う蝕は何らかの要因により、脱灰と再石灰化のバランスが崩れた状態であり、う窩に進行する前の早い段階でう蝕病変をDetection(探知)して、リスクアセスメントを行い、適切なタイミングで非切削う蝕治療を行えば、う蝕病変の進行を停止(Arrest)させ、より軽度な病変に回復させて切削修復を避けることができます。これが新しいう蝕治療です。このような一連の新しいう蝕治療をカリエスマネジメントと呼んでいます。今回の講演では、カリエスマネジメントのキーポイントとなる新しいう蝕診査システム「ICDAS」、「臨床に必要なフッ化物の知識整理」、「カリエスリスクアセスメント」について症例を提示しながら解説を行う予定です。

【講師略歴】

1958 年 東京生
1983 年 東京歯科大学卒業
1983 年 千代田区五番町 福島歯科医院勤務
1986 年～ 現在地で診療
2004 年～ 医療法人社団清泉会杉山歯科医院理事長

八千代市歯科医師会

1996 年～2009 年理事 2009 年～2011 年 副会長

2011 年～2013 年会長 2013 年～2019 年 監事

八千代市健康まちづくりプラン評価策定委員会副会長

八千代市歯科保健推進協議会会長

所属学会等

日本ヘルスケア歯科学会代表 2011 年 3 月～

日本口腔衛生学会 う蝕委員会委員 2011 年～2015 年

日本歯周病学会、日本歯科保存学会、日本小児歯科学会、

IADR 会員 2015 年～

ORCA 会員 2018 年～